

宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題字/金森由利子)

第17号

発行人

〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 鈴木幸一

目次

- 巻頭言 理事挨拶……………1
- 定例研究会の概要……………2~6
- 「ミニ・茶話会」便り……………6・7
- 賢治と音楽の会便り……………7・8
- エッセイ……………9
- 宮澤賢治記念短歌会報告……………10
- 第6回宮澤賢治学生短歌大会報告……………11~13
- 特別寄稿……………14~16
- ウルグアイだより……………17
- 会員投稿……………18

巻頭言



宮澤賢治が今の世にあれば

宮澤賢治センター理事 岡崎正道

宮澤賢治が世を去って80年になる。弟の宮澤清六氏が亡くなったのが2001年だったから、今年が13回忌である。90年ほど前賢治が花巻農学校で教鞭をとっていた頃の教え子で現在も存命という方も、もうほとんどいなくなってしまうと思われる。宮澤賢治は、今では完全に歴史上の人物と言ってよい。

だが、賢治の存在が今でもある種の輝きを保ち続けていることも否定しがたい。

21世紀に入ってもなお人類の幾多の困難な課題に解決の糸口が見出せず、日本でも様々な問題が噴出している現状を思うとき、「宮澤賢治が今の世の中を見たら、果たしてどう思い、何と云うだろうか?」という想像(夢想)を禁ずることができない

いのは、決して私だけではないであろう。

この数年自民党と民主党の大政争(もともと昨年末の総選挙で民主党は議席を激減させてしまったが)が政権を争ってきたが、互いに責任のなすり合い、泥仕合の様相と言えなくもなく、毎年のように総理大臣が代わるといふ異常な事態が続いている。賢治の晩年の大正末、昭和初期もまた、政友会・民政党という二大政党が政権交代を繰り返して罵り合う醜態を演じて不況に喘ぐ国民にあきれられ、結果軍部の台頭を招いて、戦争とファシズムへの道を押しとどめることができないまま、日本は1945年の破局へとひた走った。今は軍部の暴走という

懸念はないが、日中韓の領土問題や北朝鮮の動きなど東アジアのきな臭い情勢を見れば、あまり樂觀してもいられない。

賢治なら、豊かさの裏に潜む貧困、経済格差の深刻化、農業の衰退など、政治が容易に解決し得ない諸問題に深い憂慮の念を抱くに違いない。自ら土を耕したり、物を作ったりすることを経んじ、安易に便利な商品ばかりを追い求める人々の姿にも批判の目を向けるであろう。まして額に汗して働くことを避け、一攫千金を狙ってマネーゲームに狂奔する者たちなど、賢治には到底同じ世界の人間とは思えないはずである。

また学校教育の様々な問題、すなわちいじめ・不登校・校内暴力、そして生徒に対する管理

と締めつけ、教師による体罰などは、賢治が最も憂えることであるとされる。

宮澤賢治は型破りな言動で父親と対立したり地域の人々から白眼視されたりもしたが、教師としても非常にユニークな人であった。「農業は芸術だ!」と叫び、農学校であえて音楽や芝居の教育に力を入れた。生徒たちと一緒に畑仕事に汗を流し、登山やハイキングを楽しみ、常に彼らと苦楽を共にしようと努めた。生徒たち一人一人の個性、持ち味を重んじ、それらを最大限に生かすような教育のあり方を模索し続けた。決して知識の詰め込みや道徳観の押しつけなどではなく、生徒各自を一人の人間として見つめ、その成長を暖かく見守ろうと心がけた。家が貧しくて学費が払えない生徒のために奔走し、そうした貧窮に悩む親たちの相談にも快く応じた。教壇から講説を垂れるのではなく、生徒たちと視線を同じくし、彼らのフレッ

シユな感覚に自ら学ぼうとした。そうした姿勢を持つ教師に対し、生徒たちが敬愛の念を抱くようになるのは当然であろう。子どもたちに同じレールの上を歩かせて逸脱を許さず、徹底した管理と束縛で学校の秩序を保とうとするような、現在の学校にも往々見られる歪んだ教育のスタイルは、賢治の描いた学校像とは大きく異なるものであったろう。文部科学省「教育委員会」学校というタテの序列の下で、「個性重視の教育」が唱えられながら、実際はそれと全く裏腹な個性抑圧の同質化圧力に苛まれるという、まことにおどろおどろしい教育が進行している。そうしたおぞましい教育の実態を是正することなく、ただ生徒たちに向かって「夢を持って」「未来へのロマンを語るう」などと呼びかけたところで、そんな欺瞞と偽善に満ちた大人の声に今の子どもたちがまともに耳を傾けるわけがない。教師たちが自分の描く方向に生徒を導こうとすればするほど、その思いが無惨に踏みこまれ、良心的な教師ほど悩みを深めて精神の病的発症にさえ追い込まれるという深刻なジレンマがある。

賢治が花巻農学校を退任する際に残した「生徒諸君に寄せ

る」という一文がある。「諸君はこの颯爽たる諸君の未来圏から吹いて来る、透明な清潔な風を感じないのか！・・・新しい時代のコペルニクスよ、余りに重苦しい重力の法則からこの銀河系統を解き放て！・・・新たな時代のマルクスよ、これらの盲目な衝動から動く世界を素晴らしく美しい構成に変えよ」私も大好きなこのフレーズは実には心躍らせる響きを有するが、ここには賢治の相当に大胆な決意と主張が語られていると言えるだろう。限りなき夢とロマンを追い求めながら、現実の貧苦に呻吟する農民たちの窮状をいかにして打開するか？そこに

定例研究会の概要

第68回 11月8日(木)

▽会場 農学部1号館第1会議室

▽講師 宮澤賢治センター事務局長 佐藤 竜一氏

▽演題 「草野心平と宮沢賢治」

▽司会 池田 成一
参会者 26名。

賢治の終生の課題と苦悩が存したのであるが、そうした社会の諸矛盾を解決した後に「素晴らしく美しい構成」をもつてなる新社会が展望される。賢治の脳中には、若者たちの無限の可能性がかかる理想をきつと実現してくれるに相違ないという、大きな期待が溢れていた。

翻って現在の社会を見れば、賢治の時代以上の複雑な矛盾が様々に渦巻いているが、今の学校の教師たちの中に、この宮澤賢治のフレーズを自信をもって子どもたちに投げかけることができる者が果たして何人いるであろうか？

(岩手大学国際交流センター教授)

る。彼の存在は私に力を与える」と書いています。

今考えれば、心平の炯眼はまさに驚嘆すべきことといえましょう。現在賢治を天才と評価する人は大勢いますが、一九二六年時点で、自費出版の『春と修羅』『注文の多い料理店』を出版したばかりの賢治を高く評価する人はほとんどいませんでした。

心平は一九〇三年、福島県いわきに生まれました。一九二〇年、慶応の普通部三年に編入しましたが、慶応には通わず、昼は正則英語学校、夜は善隣書院に通い語学の勉強をしました。当時の日本人としてはきわめて稀なケースですが、一九二一年中国に渡り広州の嶺南大学に留学しました。

その頃すでに詩を書いていた心平は、青島日本中学校にいてやはり詩を書いていた黄瀛(こうえい)と文通を開始するようになり、一九二三年のことでした。「いったいあなたは日本人なのでしょうか。中国人なのでしょうか」という風変わりな手紙が黄瀛から寄せられ、文通が始まったのです。中国で留学生生活を送り、日本の詩の雑誌に投稿していた心平は、黄瀛にとって不思議な存在に思えたようです。

一九二五年四月には黄瀛らとともに詩誌『銅鑼』を創刊しました。やがて、いわきの中学時代の友人・赤津周雄から『春と修羅』が送られてきて、心平は一読賢治の才能に驚くのです。すぐに心平は賢治に『銅鑼』の同人にならないかという誘いの手紙を書き、賢治は承諾します。『銅鑼』第4号に「命令」

「未来圏からの影」を発表、以後次々に賢治の作品が掲載されます。妹トシの死に際して書かれた「永訣の朝」も『銅鑼』に発表されました。

賢治と心平、黄瀛との橋渡しをした人物として重要なのは森莊巳池です。一九〇七年生まれの莊巳池は、一八九六年生まれの賢治より十一歳も若いのですが、すでに岩手詩人協会の代表的な詩人で、賢治の詩友で、盛岡中学時代にすでに知り合っていたのでした。後に直木賞作家となる莊巳池ですが、そのころは詩を書いていました。

莊巳池は盛岡中学校を経て上京し、東京外国語学校専修科(夜学)でロシア語を学習。賢治の推薦で『銅鑼』の同人となりました。同人となったのは第8号からで、すぐに『銅鑼』の集まりに顔を出しています。心平をはじめとする『銅鑼』の同人たちは賢治本人と会ったことはな

く、莊巳池を通して賢治の人となり懸命に聞き出そうとしました。

心平は詩壇のオルガナイザーとして力量がありました。サトウハチローなど『銅鑼』の同人だけでなく、多くの詩人たちが心平の周りに集まってきたのです。賢治が出版した童話集『注文の多い料理店』はほとんど売れず、「友達にあげてください」という意味の私信とともに蜜柑箱いっぱい心平宛に送られてきました。

心平は友人の詩人たちに『注文の多い料理店』を配布しますが、そのことが賢治に恵みをもたらします。たとえば尾形亀之助は主宰する雑誌『月曜』に「オツベルと象」「さしき童子のなし」「猫の事務所」を、佐藤一英は主宰する『児童文学』に「北守將軍と三人兄弟の医者」「グスコブドリの伝記」を掲載しました。

詩壇の大御所だった高村光太郎を心平に紹介したのは黄瀛で、彫刻家でもあった光太郎は



佐藤竜一氏

「黄瀛の首」を制作していま
す。この作品は土門拳により撮
影されましたが、後に空襲で焼
失しました。賢治、心平、黄瀛
は皆光太郎を尊敬していて、詩
作にしのぎをけずっていました。

ネットワーケ能力のある心平
と交友ができたために、賢治の
才能を知る人々は徐々に増えて
いったのです。生前ほとんど無
名で終わり、生涯で一度しか原
稿料をもらわなかった賢治です
が、死後有名になったのは心平
の貢献が大いえます。

生前賢治と会うことがなかつ
た心平は、死後宮沢家を訪れま
した。賢治の死の翌年、昭和九
年一月に『宮沢賢治追悼』が出
版されますが、編集したのは心
平です。出版費用の大部分は宮
沢家が出しました。八三頁、百
部のささやかな出版でした。

同年二月一六日、宮沢清六が
上京し、新宿にあった喫茶店モ
ナミで心平らと会います。これ
が第一回宮沢賢治友の会となり
ます。高村光太郎、尾崎喜八、
菊地武雄、永瀬清子らが出席し
ました。同年一〇月には『宮澤
賢治全集』（文圃堂版、全三巻、
八百部）の刊行が開始されまし
たが、装丁は高村光太郎が担当
しました。賢治の文名はこうし
て、少しずつ高まっていったの

です。

なお、黄瀛や草野心平の生涯
については拙著『黄瀛―その詩
と数奇な生涯』『日中友好のい
しずえ―草野心平・陶晶孫と日
中戦争下の文化交流』（共に日
本地域社会研究所刊）を参照し
て下さい。

（佐藤 竜一 記）

第69回 12月14日(金)

▽会場 農学部1号館第1会
議室

▽講師 エッセイスト
澤口たまみ氏

▽演題 「宮沢賢治『春と修
羅』の恋について、続報」

▽司会 佐藤 竜一
参加者 26名。

◆賢治作品の読者として

賢治について、いつ、どこ
で、何をしたら、というような伝
記的研究が重要であることは言
うまでもない。が、その書き残
した言葉を読み解くことなくし
ては、賢治を正しく知ることは



澤口たまみ氏

できない。

伝記的研究と読解は、両輪の
輪である。

しかしその反面、伝記的研究
とは自由なところで、賢治の言
葉を味わう愉しみがあつていい
し、それを伝記的側面から「誤
りである」と断じることも、ま
た正しい態度とは言えない。

そこで今日は、賢治が『春と
修羅』を書いていたころ、実ら
ぬ、しかし相思相愛の恋をして
いた、という事実……少なくとも
も私のなかでは事実、ただし多
くの人に認められたわけではな
い……をもとに、賢治の書き残
した言葉の海を旅してみたい、
と考えている。

したがって、伝記的研究に面
白みを覚える方にとっては、じ
つにくだらぬ考察であるかも知
れず、賢治ではないが、

これらのなかには、あなたのた
めになるところもあるでせうし、
ただそれつきりのところもあるで
せうが、わたくしには、そのみわ
けがよくつきません。

という内容であることを、あ
らかじめ言い訳しておく。

◆『宮澤賢治 愛のうた』で記
したこと

拙著『宮澤賢治 愛のうた』

（盛岡出版コミュニケーション刊）
において、私は、花巻農学校で
教師をしていたころの宮澤賢治
に恋人がおり、『心象スケッチ
春と修羅』は賢治にとって「恋
の記録」という側面を持つこと
を報告した。

さらに、当時の恋人として有
力なのは、花巻小学校で代用教
員をしていた大島ヤスであるこ
とを示唆した。賢治の恋愛につ
いては、恋人を持たなかったと
いう説が根強く存在している反
面、恋人がいたとする説も数多
く出されている。が、その恋人
が特定されるには至っていない。

私が、大島ヤスを恋人として
支持する理由は、一九二七（昭
和二）年五月七日の日付を持つ
詩（古びた水いろの薄明穹のな
かに）（『詩ノート』所収）であ
る。以下に関連部分を抜粋する。

そしてまなこの学校がたち
わたぐしほそのがらんとした巨きな寄宿舎の
舎監に任せられた
恋人が雪の夜何んも
黒いミトをかういで男のふうをして
わたくしをたづねてまわりました
そしてもう何もかも過ぎてしまったのです

賢治の詩に、「恋人」という
言葉がはっきりと明記されるこ
とは少ない。「学校がたち」や「寄
舎の舎監」という言葉から、大
正十一年の冬であることが分か
る。したがってこの恋人が『春
と修羅』の書かれた時期の恋人
を指していると思われる。

この時期の恋人として名前が
挙がっている女性は複数名いる
が、雪の夜に寄宿舎を訪ねてゆ
くことは、花巻市内に住んでい
る女性でなければ不可能であろ
う。花巻の女性は、今のところ
大島ヤスだけである。

◆ヤスの遺族からの証言

『宮澤賢治 愛のうた』を出版
したのち、大島ヤスの遺族より
「この本に書かれた恋は事実で
ある」との証言をいただいた。
ヤスより九歳年下の妹トシ（ヤ
スの妹もまたトシである）は、
ヤスに頼まれて賢治に手紙を届
けたことがあり、賢治からは返
事を貰って帰ってきたという。

賢治とヤスは相思相愛であ
り、一時は宮澤家より結婚の申
し入れもあったとされる。ヤス
の母が大反対であったために、
この恋は実らなかつた。ヤスは
傷心のまま、東和町の及川修一
という医師との結婚を承諾し、
大正十三年五月に渡米した。ふ
たりの恋が記された『春と修
羅』が出版された、一か月のち
のことである。

また、ヤスのご遺族からは、ヤスが渡米するとき、すでに結核に感染していたこと、その命日が昭和二年四月十三日の未明であること、葬儀はシカゴ市内の教会で行われたことなどの情報が提供された。

『春と修羅』には、妹トシの名は記されていても、恋人ヤスの名は記されていない。それは、自分との恋に破れ、他の男性のみに他ならない。賢治は、決してヤスの名を記してならないと、厳しく自分に言い聞かせていたのだろう。

しかし昭和二年の四月に、ヤスはこの世を去った。それは賢治にとって、ヤスとの思い出を記す動機として十分すぎる。先に紹介した「古びた水色の薄明穹のなかに」が記されたのは、昭和二年の五月である。どうやら遠いアメリカでのヤスの死を、賢治にそっと知らせた人物がいたようだ。

この人物は、ヤスの結婚にも関与していると思われる。ちなみに賢治は、ヤスとの恋が破局を迎えたと思しき大正十二年の五月に、自身の恋の顛末を童話化した作品「シグナルとシグナレス」を岩手毎日新聞に連載しているが、その作中に、恋するふたりに好意的な「倉庫の屋

根」なる存在が登場する。

◆ヤドリギの祝福

賢治は「倉庫の屋根」から、ヤスの結婚についても、知らされていたと思われる。自らの恋の記録でもある『春と修羅』のラストを飾る詩は「冬と銀河ステーション」であるが、この詩のなかで賢治は次のように書いている。

川はどんどん水(サエ)を流しているのに
みんなは生ゴムの長靴をはき
狐や犬の毛皮を着て
陶器の露店をひやかしたり
ぶらさがった草魚を品だめしたりする
あのにぎやかな土沢の冬の市目です
(ほんの木とまはゆい雲のアルコール
あすこにやどりぎの黄金のゴールが
さめざめとしてひかつてもいい)

西洋には、「やどりぎの下で愛を誓い合った恋人は幸せになる」との言い伝えがある。賢治は、盛岡幼稚園で園長を務めていたエラ・メイ・ギフォードと親しく、ヤドリギについて会話を交わしたことがある。

なぜなら「春と修羅 詩稿補遺」のなかの「あかるいひるま」に、

あかるいひるま
ガラスのなかにねむってあると

そとでは冬のかけらなど
しんしんと降つてあるやう
蒼ざらも聖く

羊のかたの雲も飛んで
あの十二月南へ行った汽車をさぐりだ
Look there a ball of mistletoe,
おれは窓越し丘の巨きな栗の気を指した
Oh what a beautiful specimen of that
あの青い眼のむすめが云た

とあり、文語詩を書くために自作した年譜とも言える「文語詩篇」ノートの二六頁、大正十一年の項には、

〈十二月仙台二行ク車中 やどり木
Miss Gifford みかん〉

とのメモがある。「あかるいひるま」には、青い眼のむすめとの会話として、

We say also heavens,
but of various stage.

との言葉もあり、「銀河鉄道の夜」のなかの、「かほる」との会話を彷彿とさせる。

賢治がヤドリギについての言い伝えを知っていた可能性は高い。したがって「冬と銀河ステーション」の舞台が、ヤスの結婚相手の出身地である土沢であることと、「やどりぎの黄金のゴール」が／＼さめざめとしてひかつて

もい」と記されていることは、無縁ではなからう。

◆文語詩のなかの「冬と銀河ステーション」

文語詩は、賢治にとつて人生のエピソードをまとめた伝記と言つても過言ではないが、その内容からみて、「冬と銀河ステーション」に記されたエピソードは、文語詩では「流水(サエ)」となつている。

さらに「流水」には先駆形があり、そのタイトルは「ロマンツェロ」である。

ああきみがまなざしのはて
うら青く天板は澄み
もろもともにあらんと云ひし
そのまちのけぶりは遠し

との一節があるように、「流水」と「ロマンツェロ」には「きみ」が登場する。

また、文語詩のなかには、その先駆形に「ロマンツェロ」のタイトルがつけられているものがある。一つあり、それは「雲ふかく 山裳を曳けば」である。

雲ふかく
山裳を曳けば
きみ遠く去るにかも似ん

丘群に

日射し萌ゆれば
きみ来り訪ふにも似たり

とあり、ここにも「きみ」が登場する。

また、「雲ふかく 山裳を曳けば」のひとつ前に収録されている文語詩は、「なべてはししくよそほひて」であり、その先駆形には、美しく装った女性との待ち合わせと、おそらくはその翌朝であろう、駅での別れのシーンが記されている。

フェルトの草履 美しくして
なべての指は 荒みたり
さもいたいけの おみなごの
オペラバッグを 振れるあり

暁惑ふ 改札を
ならび過ぐると おのおのに
人なきホーム 陸の道
まなこさびしく ふりかへる

参考までに「ロマンツェロ」はドイツの詩人ハインリッヒ・ハイネの詩集の名前である。

◆土神やきつね恋した相手は

ハイネと言えば、賢治の童話としてはめずらしく、恋と嫉妬に燃えたぎる心情を描いて非常に異色である「土神ときつね」のなかで、きつねが、恋する相手である一本木野の美しい樺の

木に対し、詩集を貸してやるという場面がある。

この三角関係の舞台となつてゐる一本木野には、『春と修羅』に同名の詩があることはご存知のとおり。

わたくしは森やのはらのこびごと

蘆のあひだをさがさぎ行けば

つましく折られたみどりいろの通信は
いつかほつとはひつてゐるし

はやしのくらしいこをあるいてあると
三日月がたのくちびるのあとで

脈やずぼんがいつばいになる

との一節からも分かるとお
り、「一本木野」は、賢治が自
然を恋人として生きてゆくこと
を、高らかに宣言した詩であ
る。そのひとつ前の詩は、「過
去情炎」で、賢治は畑の傍らに
立つヤマナシの木に口づけをし
にゆくのだが……。

わたくしは待てぬたこびごとにあやうに
鷹揚にわらごその木をしたゆくだけでも
それはひとの情炎だ
もう水いの過去になつてゐる

水いろ、ヤマナシ、これらは、
ヤスとの恋に賢治が与えたキー
ワードである。また「土神とき
つね」で恋の対象となる「樺」
の木は、岩手ではサクラの類を
指すことが多く、ヤマナシとは

同じバラ科の樹木である。「土
神ときつね」のなかの樺の木
は、白い花を咲かせることから
も、サクラの類よりはヤマナシ
と考えたほうが妥当である。

そのことを考えると、自らの
恋の顛末を童話化した「シグナ
ルとシグナレス」を発表する前
に、同じ岩手毎日新聞に「やま
なし」を発表していることは、
決して偶然ではないのだろう。

五月、川底にいる親子の蟹は
見る。

『そら、樺の花が流れて来た。ご
らん、きれいだらう。』

泡と一緒に、白い樺の花びらが
天井をたくさんすべつて来ました。

この白い樺の花こそ、ヤマナ
シの花である。そして秋、ヤマ
ナシの実は川に落ちる。

間もなく水はサラサラ鳴り、天
井の波はいよいよ青い焰をあげ、
やまなしは横になつて木の枝にひ
つかかつてとまり、その上には月
光の虹がかもか集まりました。

この童話「やまなし」を、賢
治は次のように結ぶ。

私の幻燈はこれでおしまひであ
ります。

それはまるで、自らの恋を「幻
燈」として、終止符を打とうと
しているかのようなのである。

◆アメリカ帰りの博士に

ここでさらに思い浮かぶの
は、「慶十公園林」のなかのア
メリカ帰りの博士の存在であ
る。

「あ、ここはすっかりもとの通
りだ。木まですっかりもとの通り
だ。木は却って小さくなつたやう
だ。みんなも遊んでゐる。あ、
あの中に私や私の昔の友達が居な
いだらうか。」

そう語る博士の思いは、賢治
にとつて、渡米したすべての知
り合いに對しての願いと言つて
も過言ではないだろう。

博士はドクターであるが、ヤ
スとともに渡米した及川修一も
また、医師すなわちドクターで
ある。

さらに、ヤスがシカゴから親
戚に宛てて送つたハガキには、

シヤトルから三晝夜十一時間で
シカゴにつきました。誰も迎へて
くれるなつかしい人もなく、淋し
いガランとした古い家が私たちの
家でした。

(中略)

空気と水の悪いのが悲しくて、

宮澤賢治センター入会のご案内と 原稿募集のお知らせ

岩手大学では、賢治生誕111
0年の年である2006年の開
学記念日(6月1日)を期して、
「宮澤賢治センター」を設立い
たしました。

その骨子としては、

- ① 広く岩手大学における宮澤賢治の関心を集約する
- ② 組織は学長裁定のNPO的組織とし、趣旨に賛同する人は誰でも加入できる
- ③ 設置場所は岩手大学内「百年記念館」とし、日常の連絡先は岩手大学地域連携推進センター(TEL019-621-6672、FAX019-621-6493、Eメールkenji@iwate-u.ac.jp、ホームページhttp://kenjicgs.iwate-u.ac.jp/)とする
- ④ 会費は当分徴収しないなどです。

賢治に関心があり、広い意味で岩手大学にご縁のある方であれば、どなたでも歓迎いたします。メールや電話、ファックスで入会申し込みができます。会員の方には、「宮澤賢治センター通信」をお送りしています。

なお、「通信」の次号(第18号)は7月20日発行を予定していただきます。会員各位の原稿をお待ちいたします。6月末までにメールまたは郵送で、宮澤賢治センターまで送付してください。内容によっては掲載できない場合がありますので、ご了承ください。

宮澤賢治センターでは設立5周年を迎えた一昨年、ロゴマークを作りました。作成者はアートフォーラムいわての中島香緒里さんで、宮澤賢治の代表作「雨ニモマケズ」をスタンプに見立て、改めて賢治の想いを多くの人々の心に刻み込みたい。そういう想いで作成したということです。



悲しくて／＼(二文字不明)に出るにも異国のことで私には冷たく感じられてなりません。

と、異国の寂しさがつづられている。

そんなヤスの思いは、はたして賢治には伝わっていたのだろうか。

ちなみに、作中にアメリカ帰りの博士のような、印象的な人物が出てきた場合、しばしば「モデルは〇〇である」などという研究もなされるのだが、私自身は、自分もものを書く人間として、モデルを「特定」するのはナンセンスであると考えている。

作中の人物に、ある特定の人物をそっくり当てはめて人物造形をする場合もあるにはあるが、それはむしろ少ないのではないか。したがって、作中のある人物が、複数の知人を投影していることは十分に考えられ、この博士についても、そういう考えを当てはめるのが妥当だと思われる。

それはたとえば、「銀河鉄道の夜」のなかのカムパネルラにも当てはまる。カムパネルラは、しばしば妹のトシや友人の保阪にそのモデルを求められるのだが、ある人物に特定するのはむしろ無理があるであろう。

賢治はその死の床でも「銀河鉄道の夜」に手を入れていたのであり、その脳裏には、その人生で出会ったであろう、無数の人々の面影が去来したはずである。

ジヨバンニはあたかも賢治自身のように読みとれるが、最終手入れの段階では、死にゆくのは賢治自身であり、カムパネルラの立場になっているのである。そうしたときに、賢治が「イギリス海岸」のなかで、溺れた生徒に対して抱いた感情を、ザネリを助けて自分は命を落としたカムパネルラに重ねていたとしても、少しも不思議はない。

◆あなたの神さま、わたしの神さま

同様のことが、「銀河鉄道の夜」に出てくる唯一の女性、「かほる」にも言える。

先に、賢治が女性宣教師ギフォードと親しかったことを紹介したが、「銀河鉄道の夜」のなかで、女の子とジヨバンニが、

「そんな神さまうその神さまたい」「あなたの神さまうその神さまよ」

と話した部分は、おそらくは大正十一年の冬、仙台へ行く車中でギフォードと話した会話、

We say also heavens, but of various stage.

がモチーフとなっているのであろう。

そしてまた、かほるたちがイエスと思しき神さまのもとに召されてゆくシーンでは、シカゴの教会で葬儀をしたヤスへの思いが投影されているものと思われる。

さらに「銀河鉄道の夜」の第七十八葉の裏面には「カムパネルラ 水色の恋」とのメモ書きがある。先に述べたとおり、「水色の恋」は、ヤスとの恋を指す場合が多い。賢治がこの物語を書いていたとき、トシや保阪はもちろんであるが、決してその名を記してはならない相手、ヤスのことを思っていたことは確かなのではないだろうか。

これで私の、ヤスをめぐる幻燈はおしまいであります。

(澤口 たまみ 記)



「茶話会」便り
——茶一話——

茶話会の様子をお知らせします。定例会終了後の茶話会では質問や意見が続出し、時間内では収まらなく帰路に尚話し合いが続いたり茶話会の担当者としては嬉しい思いであります。

◎ 宮澤賢治は草野心平に、心平は黄瀛に評価され世に知られるようになり、その三人の橋渡しは森庄巳池でした。また当時既に詩壇の大御所であった高村光太郎への紹介と繋がり、それが光太郎の戦後花巻への疎開に繋がった等、当時の文学界のつながりから賢治がしだいに評価されたという人間関係の大切さ、不思議さを教えられました。

その中で、草野心平への手紙に「私は詩人としては自信がありませんが一個のサイエンティストとしては認めていただきたいと思います」——との一節があります。茶話会で議論になりました。例えばこの文は賢治の詩人としての謙遜の姿で言ったことで、本当は詩人として自信があり作品はすごい物なのだとか、あるいは賢治の作品は賢治自身が単なる想像の世界を書いたものでなく、

現実に見たまま、また実感したまま、賢治にとっての現実を書いているのでサイエンティストと捉え、自身をサイエンティストと見て頂きたいということだとの話もありました。

これは確かに現代の脳科学から見れば、同じ状況・環境であっても、全ては各人が一旦、眼、耳、鼻、舌、身の五感を通し情報として脳に入り、その後脳の判断を現実のものとして我々は捉えている訳で、事実それぞれ一人一人の判断には差異があり、全ての人の判断が全く同じということはありません。賢治のことから言えば、賢治にとっての現実を詩のかたちで書いていることはサイエンティストとしての行為そのものであり、いわゆる詩人の創作ではない、という事を言っていると考えられるわけです。

量子論的に言えば、見える世界のみが現実の世界ではなく、見えない世界は「無い世界」とは言えないということ。多元世界の存在も考えることができる。賢治は自分が物語ったことはすべて現実の世界だと語っている。すなわち、サイエンティストであるというこの宣言と思われる所以です。

例えば、現在の脳科学的には、自身の意識が遊体離脱し体

外から自身を眺めるといふ現象に關して、後頭部に強力な磁力を当てることでその体験をすることができるといふ実験もあり、脳とは幻妙なもので賢治が当時から現代科学の先駆けを書いていたと考えることも楽しいことではないでしょうか。

これは現在のインフレーション宇宙論のもとでは「マルチ・ユニバース(多元宇宙)」「多世界解釈」或は「パラレル・ワールド」の考えに合ひ、賢治の主張がそのまま現代の科学と一致しているとも言えるわけです。

また、仏教的な「色即是空」「空即是色」或は「一切即一切」「一切即一」等の考え方は現代科学と合致するものがあり、今後大いに研究すべきことがらと思ひます。

◎ 賢治の恋愛に關しては、岩手病院の看護婦に恋い心を抱いたとか、「羅須地人協会」時代に賢治に敬意を抱いた女性がいとか、伊豆大島で農業指導をしていた伊藤七雄の妹の伊藤チエが見合ひの相手だったとか言われていますが、いずれのケースも「男女交際」には至らずに終わっているようです。

そのような中で「相思相愛」の相手として大島ヤスがあげられました。大島ヤスは賢治の4歳下で、花城小学校の代用教員

をしており、賢治が花巻農業教師時代雪の夜、男風の黒いマントを着て何度も訪ねていたとか、ヤスの母が反対であったこと等遺族からの証言が出されている。またヤスはその後東和町の医師に嫁いで渡米し4年後逝去し、それが賢治の「恋愛」の姿だったとの事でした。

(姉 姉 武司 記)



賢治と音楽の会便り

◎ 心静まるようなブルックナーの曲は長大なものが多くですが、ひととき落ち着いて聞くのもいいものです。

今回はブルックナーの「第4番(ロマンテック)」と並び有名な「第7番」を聴きました。この2曲が有名になったのは、どちらも当時有名な指揮者のリヒター(第4番)とニキシュ(第7番)が初演し、それで一躍名曲として定着しました。尚、ブルックナーが初演した曲は余り有名にならず、一時期神経衰弱のようになつたりしました。現在はむしろ「第8番(リヒター初演)」や「第9番」が好まれていくようです。

ブルックナーの交響曲の共通なスタイルとして第1楽章は俗に「原始霧」または「ブルックナー開始」と呼ばれる混沌たる宇宙の創世を思わせるかのような弦のトレモロが入り、そして第4楽章は宇宙的なスケールを感じさせるような壮大な終楽章で終わるという様式です。勿論、各交響曲で全部違います。が、ちよつと聴いた分では全部同じく思われますが。

ブルックナーの当時ウィーン音楽界は大きくワグナー派

とブラームス派と陣営が別れている状態で、お互いに競い合っておりました。特にブルックナーはワグナー派と言われており、ブラームス派から標的にされておりました。彼の交響曲は「無内容だ」とか「長大だけだ」とか言われており、ブラームスでさえ「化け物のような交響曲」との評を語っておりまし

た。しかし、現在はその純粹さ、清らかさ、恍惚さ等が評価され良く聴かれるようになっており、音楽学者の評としては「宇宙的」とか「天地創造」とか「世界の靈魂」を現していると言われています。

特にこの曲は第2楽章を作曲中にワグナーが逝去したため、この章は葬送音楽として書かれました。

賢治さんが聴いた記録はありませんが聴いていたらなんと言いかと聞いてみたいと思ひます。

◎ 音楽には絶対音楽と言って「純粹に音の構築物の音楽」と標題音楽と言ひ「文学的、繪画的觀念や表象を現した音楽」があると言われておりますが、その標題音楽の代表的作品としてベルリオーズの「幻想交響曲」を聴くことにしました。

これはベルリオーズが自身の

幻想的な思いをそのままに音楽に表現した曲で、当時のシェイクスピア役者のハリエット・スミスソンへの幻想的な恋愛の模様を表している曲です。

これは作曲者が失恋し麻薬を飲んで自殺を図つた時の夢の世界を表したとされ、各楽章は「夢と情熱」、「舞踏会」、「野の風景」、「断頭台への行進」、「ワルプルギスの夜の夢」となっています。

中でも、第4楽章「断頭台への行進」が有名です。

一月は「音楽会」が中止のため最後に、ウィーン・フィルによる新年恒例のニュー・イヤール・コンサートにならない、また、賢治さんがよく聴いたと言



われるヨハン・シュトラウスⅡのワルツ「ウィーンの森の物語」を聴きました。

◎ 本年は奇しくもヴェルディとワーグナーの生誕200年になりました。

賢治さんも「アイダ」など両作曲家の曲を聴いており、今回は二人の作品を聴きました。二人とも長大な曲が多く今回はハイライトを聴きました。

ヴェルディの「アイダ」のハイライト部分は「清きアイダ」「勝つて帰れ」「エジプトとイシスの神に栄光あれ」「凱旋行進曲」戦いに勝った將軍よ、前に出よ」「さようなら大地」

でした。また、ワーグナーは長大な「ニーベルングの指輪」(四日間かかるといわれる。特に《神々》は5時間20分)から「神々のたそがれ」の「夜明けとジークフリートのラインへの旅」と「ジークフリートの葬送行進曲」また「トリスタンとイゾルテ」からは「前奏曲」と「愛

の死」を聴きました。「アイダ」はヴェルディの最大作で最大傑作といわれ、スエズ運河の開通式を記念して作曲されたものです。また、ワーグナーの「ニーベルングの指輪」は長大で全曲を聴く機会はなかなかありません。

「トリスタンとイゾルテ」に

関してはいつかこの会で聴いてみたいと思います。今回は、ピルギット・ニルソンのソプラノ、指揮はハンス・クナッパースツブッシュでしたが、いつか聴く時は歴史的名盤といわれるヴィルヘルム・フルトヴェングラーの指揮で、キルステン・フラグスタートのソプラノで聴きたいと思います。

(姉菌 武司 記)

今回、「賢治と音楽を楽しむ会」参加者の簡単な、代表的な声をよせて頂きました(五十音順)。

■遠田 弘

ワーグナーの重厚な音楽。そしてその名曲の数々。ああこは聴いたことがあるとか、解説を聞きながら懐かしさと快さを覚えながらのひとときでした。ともかくいい一時を過ごしました。またいい曲を聴かせてください。

■北田 まゆみ

今年初めての「賢治と音楽を楽しむ会」では、生誕200年をむかえたヴェルディとワーグナーの曲を聴きました。ヴェルディのオペラ「アイダ」はブラシッド・ドミンゴのテノールの素晴らしさに聞きほれました。中でも「凱旋行進曲」はなじみの曲で、勇壮果敢な旋律に

元気をもらいました。また、楽劇「ニーベルングの指輪」の中から「神々のたそがれ」より「夜明けとジークフリートのラインへの旅」と「ジークフリートの葬送行進曲」には、まるで天上世界にいるような荘厳さに、しばし至福のまどろみのような思いの中で聴きいりました。

■永井 雍子

今回、劇場で荘重な音楽を聴いたような喜びに包まれ、ヴェルディとワーグナーを聴きました。これらの曲は作曲家二人の個性なのか、イタリヤとドイツの違いなのか、またこのオペラ・楽劇の色合いの差異をどう表現したらいのか、どう捉えたいのか、との思いで聴きつづけました。ともかく、森公美子さんがイタリヤに音楽修行に行つて、Uターンし「歌い手の声量にとてまかなわれない」と言った気持ちが出るような曲でした。

■植原 幹雄

ヴェルディとワーグナー。自宅では聴くことのなかなか出来ないオペラの大作の片鱗を堪能することが出来ました。特に「トリスタンとイゾルテ」の「愛の死」の音楽の巨大なうねりには圧倒されました。素晴らしいひとときを過ごすことが出来るうれ

しい思いでした。

■新村 弘子

最近新しいセミナーに参加したとき、チャクラを整える人間の声に一番近い楽器はチェロということ、賢治ファンとしては嬉しい思いでした。「賢治と音楽を楽しむ会」は雑多な日常を離れた世界に誘ってくれる貴重な時間で、私にとっては、セロ弾きのゴーストから動物たちが癒してもらっているような気分の一ときです。いつも感動を有り難うございます。

■長谷川 静子

いつも同じ部屋で、同じ時間に、同じ空気のもとで、あるいは遠くから参加されている方もおり、お話をしたこともない「ただ音楽をこの場で楽しむ」方々と一緒にひとときです。

私はブルックナーの「宇宙」を感じさせる音楽に心満たされて帰る途中、急に以前読んだ童話の文章の中に音符付きで『コロナは三十七萬九千九百九十九』の中の「青ぞらいつぱい鳴っている ああきれいだ……」というところを思い出しました。足を速めて帰宅し、今日聴いた「宇宙」を感じさせる音楽で思い出した賢治の童話の文章をさがしました。

ありました!! 「イーハトーボ農学校の春」でした。ブルックナーの「天地創造」の音楽を

聴き、そして宮澤賢治を想った大切な一日でした。本当にありがとうございました。皆さんもこのような会に参加されてはいかがでしょうか。

■村田 光男

賢治さんもよく聴いたというヴェルディの「アイダ」を聴き、賢治さんがこの曲の果てしなき素晴らしさを、自身の作品に反映させていたのかと思うとき、賢治さんの心に迫ったような気がする音楽会でした。ありがとうございました。

■和田 康逸

今年がヴェルディとワーグナーの生誕200周年と知りました。

「アイダ」の「凱旋行進曲」の堂々たる曲には励まされる思いでした。また「トリスタンとイゾルテ」の「愛の死」のソプラノは劇場で聴いているような気がしました。

やはりこの「賢治と音楽を楽しむ会」は至福の時です。これからもよろしく願います。



工 ツ セ イ

啄木・賢治とサラリーマン

岩手大学教育総合センター

佐藤 竜一

文学者として有名な啄木や賢治だが、原稿を書いたり詩を書いたりして生活できたわけではない。ふたりとも勤めながら生活費を稼いだ、サラリーマンだった。

盛岡中学校（現盛岡第一高校）中退の啄木は、学歴がないため苦労を重ねた。

最初の職業は故郷洪民村（現盛岡市玉山区）にある洪民尋常高等小学校の代用教員である。月給は8円とかなり低い。

啄木が働きはじめるのは明治39（1906）年4月14日からだが、当時の給料については松本政治『石川啄木アトランダム』（盛岡啄木会刊）に記載がある。

同書によれば、岩手県の高等小学校では本科正教員の男性が19・179円、女性が12・565円、専科正教員の男性が11・333円、女性が8・743円。準教員の男性が11・444円、女性が9・500円だった。凶作の影響で税金の納入率が悪く、給料の遅れもしばしばだったという。啄木は準教員より身分が低い

代用教員だったから、月給8円はやむを得なかったといえるだろう。

その後啄木は洪民尋常高等小学校をやめ、北海道に渡る。記者として転々とするのだが、金銭的に恵まれていたとはいえない。

釧路新聞社では月給25円の三面主任として入社しているが、これは中学校中退という学歴では破格といえるかもしれない。だが、その仕事に満足はできなかった。

再び上京した啄木は、盛岡中学校の先輩である佐藤北江の紹介で、北江が勤めていた東京朝日新聞で校正の職を得た。明治42（1909）年2月24日のことだ。

収入は固定給が25円。新進歌人としての力量が認められた啄木は、やがて朝日歌壇の選者になった。歌壇の手当や夜勤手当を含めると、少なくとも月に30円にはなる。

盛岡中学校の先輩で二高、東京帝大を経て国学院で教鞭を執っていた金田一京助の月給が40円だが、講座が休みになれば

一日一円減らされるので、啄木とそう違いはない。

やはり盛岡中学校の先輩、野村胡堂は一高から東京帝大へと進学し、父親が亡くなったため明治44（1911）年に東京帝大を中退して報知新聞社に入社したが、そのときの初任給は20円だった（野村胡堂『胡堂百話』、中央公論社刊）。

啄木の学歴からすれば恵まれた収入だったが、元来の浪費癖に加え、父母や妻子といった養うべき家族の多さが生活苦をもたらした。給料だけでは足らず、金田一京助などから多くの借金を重ねることになったのである。

サラリーマンという言葉が一般化するのには昭和初期のことだ。大正時代までは俸給生活者といわれていた。

大正時代の学制改革に伴い、サラリーマンの供給源である大学・専門学校生が急増するのだが、賢治はその潮流に乗ったひとりといえるかもしれない。

盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）を卒業した賢治は、その高学歴を生かし、大正11（1921）年12月、稗貫郡立稗貫農学校（後に岩手県立花巻農学校に昇格）教諭となった。4年3か月をその学校で過ご

すのだが、初任給が月給80円、やめるころには月給130円をもらっていた。そのほかに賞与があったので、賢治は年間おそらく初年度で1100円、最後の年には1600円くらいはもらっていたと推測できる。

当時、東京など大都會での大学卒の平均的なサラリーマンの月給が月に百円、年間で1200円といわれている（岩瀬彰『月給百円』サラリーマン、講談社刊）。

岩手には農民が多く、安定した勤務先は少ない。比較して賢治は相当恵まれた生活をするこ

とができた。啄木とは異なり、賢治には扶養すべき家族もない。好きなレコードを買ったり、浮世絵を収集したりもできた。

大正14（1924）年、賢治は詩集『春と修羅』、童話集『注文の多い料理店』を自费出版するが、これも潤沢な給料のおかげといえるだろう。

生活に追われていれば、本を出版することはなかったかもしれない。

だが、農民の子弟である生徒と接するうち、賢治は自身の恵まれた境遇にいたたまれなくなり、大正16（1926）年3月31日、花巻農学校を辞職。農村に芸術の風を吹かせようと羅須

地人協会を設立した。オーケストラを結成したり、レコード鑑賞会を開いたり奮闘した賢治だが、元来の病弱に無理を重ねたため、その試みは挫折に終わる。

晩年、東北砕石工場技師兼セールスマンとなるが、その条件は月給50円、年に600円（但し、炭酸石灰の現物支給）、当時の長坂村（現一関市東山町）村長の月給が35円ということを考えれば、破格といってもよい条件だった。



宮澤賢治記念短歌会報告

会員 阿部 眞紀子

平成二十五年一月の短歌会
は、新年会を兼ねて会場を大学
外にしてみた。由緒ある「北ホ
テル」のカウンターの奥にある
特別室だ。参加者十名、良いこ
とがありそうな一月十二日。始
まる前に北田まゆみ氏より吉報
がある。

昨年、「石川啄木父子歌碑建
立三周年記念短歌大会」(於・
高知)に投稿した本会のメン
バーの短歌が入賞したという。
一般の部、家族 で田村依江さ
ん。「高知には父君おわす啄木
の熱き命の短歌(うた)を噛み
しむ」幸先の良いことだ。

いつもは望月善次先生のミニ
講義が始まるのだが「新年なの
で、今日はこんな物を用意しま
した」と取り出されたのは桐箱
に納められた木製の歌留多、百
人一首の取り札である。美しい
が読むのは少し大変な平仮名。
頭の中から下の句を取り出し、
札の中の読める文字から推察す
るといいうわくわく感に皆張り切
る。賞品まで御用意下さる心く
ばりにただ感服する。「まず、
勉強します」鶴の一声で着席。
今日は一人三首の約束で、読み

人知れずの三首の歌が十組並
び、その組毎に一首好きな歌を
選ぶという方法を取る。不思議
な事に夫々心に残る歌に票が集
中した。

昼食後、望月先生を読み手に
カルタに興じた。最後にご勇退
を表明された望月学長に、
「御苦労様！」の心をこめてお
花を贈った。

平成二十五年一月十二日新年会 それぞれの短歌三首(五十音順)

姉齒武司
・茶柱が立ったと故母(は
は)に見せし日は幾十年(い
くとせ)前ぞ一人茶を飲む
・感官の衰えおぼゆ年頭に
「心新たに！」己に宣べる
・古希超えて名前すぐ出ぬ
こと多し幼孫(まご)のコ
トバの増える嬉しさ

阿部眞紀子
・新築の人未だ住まぬ家の窓
初日を映し輝いており
・行きは良い帰りは怖い高速
は除雪進まず轍が深い
・道ばたの細い枝まで凍る朝
陽が出て溶けるとほっと微
笑む

北田まゆみ
・傍らの若きがつぶやく携
帯で「うんもううったく」
脈絡知らねど
・閉店の屋台の隅の丸椅子
に「盗るな！」の貼り紙か
たむいており
・道の辺に散らばる生ごみ
奪い合うカラスの群れにし
んしんと雪

小菅アイ
・目覚めていて昨朝と異なる
気配あり積みいし雪に障子
あからむ
・門前にセーターを着し夫
をれど動くことなし置物と
知る
・初詣混んで並びて鈴音を
聞きつつおをれば願いが増
える

昆 明男
・巳の年のとどろの先に初
日の出とか俳句などひねる
新年
・盛岡の内丸隈恋しけれ
役所でもあり家族でもあり
・史実には啄木賢治光太郎
名も無き人もまた歴史なり

佐藤静子
・お正月も十日をすぎ初め
の予定のなき日歌をつくらな
・通販でサンタさんより届い
たと九歳どちの会話もすん
すん
・もふもふと恵みの雪ふる子
どもとは風の子雪の子元氣
な子

田村依江
・外灯が照らし出してる白
き道新しき年今迎えんか
・黙々と社殿に向う人達は
冷気の中に身を引き締めて
・言の葉を音にて聞けぬ人々
の思う心の深さを知りぬ

長谷川静子
・稲光稲屋の軒まで明るく
す動じることなしよりそう
すずめ
・雨あがり窓の向ふのじゅ
うの虹病の友と回復誓う
・若かりし初の出あいのドレ
ス着て仏壇中のあなたと話す

望月善次
・一年と十ヶ月とう年月を
この人もまたこの人も潜り
来たるや
・歳月の移りは誰(たれ)
のまた何の上にも来ると君
は言うのか
・乾坤(けんこん)を(いつ)
擲(てき)せんか(いつ)
擲(てき)の乾坤(けんこん)
なるかの思いこそまた

吉田直美
・電話では「大きな汽船が
見えるのよ」厳寒盛岡明日
も真冬日
・花よ咲け春風よ吹けこん
な魔法使えたらいいなマイ
ナス一〇度
・この僕は魔物使いになれる
かも一月一日子猫に見入る

*追記…望月作品三首にはそれ
ぞれの歌の始めに詞書きが
入っています。
詞書きは左記の通りとなりま
す。

「また」三首

二〇一三年一月十一日は「2
011年3月11日に起こった東
日本大震災」から、丁度「一年
十ヶ月」になる。

・一年と十ヶ月とう年月をこの
人もまたこの人も潜り来たるや

「でも風化は確実に進行して
います。」とその体験を語って
くれた人がいた。

・歳月の移りは誰(たれ)のま
た何の上にも来ると君は言うの
か

乾坤(けんこん)一擲(いつ
てき) || 「運命を賭(と)し
て、のるかそるか勝負をする
こと」 || 『広辞苑』(第六版)
の思いにも似た大勝負をしない
と風化は妨げないのだからか。
・乾坤(けんこん)を(いつ)
擲(てき)せんか(いつ) 擲
(てき)の乾坤(けんこん)な
るかの思いこそまた

2012年
12月1日

第6回宮澤賢治学生短歌大会報告

岩手大学名誉教授 望月善次

第6回宮澤賢治学生短歌大会は、昨年に引き続き「宮澤賢治記念短歌会」が主宰した。今回は400名を超える応募があった。選考は、仙台市在住の歌人佐藤通雅氏と八幡平市在住の歌人天文屋亮氏と筆者（望月善次）とで行った。

表彰式は12月1日（土）午前10時から、宮澤賢治記念短歌会のメンバーの準備のもとに岩手大学農学部1号館第一会議室で行った（進行は姉齒武司）。受賞者や保護者、関係者約50人が参加した。



表彰式参加者

鈴木幸一代表の挨拶、実行委員長である筆者の挨拶の後、表彰に入り、本大会の特徴でもある「それぞれの作品に即した評入り」の表彰状を筆者が読み上げ、鈴木代表による賞状・賞品の授与が行われた。さらに、文屋選考委員による講評があり、閉会后、記念撮影をして散会した。

入賞作品と贈った表彰状の内容は以下の通り。

最優秀賞

この夢を叶えるまではこの空が
変わっていないと信じていよう

（小田島光司 花巻市立矢沢中学校 2年）

★一見すると、宮澤賢治には直接に関係ない世界だとも読める作品です。しかし「広い意味で賢治と関係する作品」という本短歌大会の中に置くと、「信じていよう」は作者の声かそれとも宮澤賢治の声を考えさせるように出来ています。つまり、作者の思いと賢治のことが重なり合い響き合うように出来上がったのです。結句の口語的表現も効いていますね。今後の一

層の精進をお祈りします。

優秀賞

熊憎く銃を向けたわけじゃない
すまない気持ちで許せの気持ち

（大泉 櫻 花巻市立大迫小学校 5年）

★なめとこ山の熊の主人公の気持ちを代弁して、手ごたえのある作品になりました。寡黙な主人公は熊撃ちの瞬間のことを語ることはありません。しかし、この歌の作者はそつと寄り添い、裁くことなく、主人公の気持ちを語ります。重いテーマの歌ですが、作者がこめた優しさが伝わって、しみじみとする歌です。

妹の永訣の日が訪れて雨雪のう
つわただこに残る

（渡邊蓮瑠 紫波町立古館小学校 5年）

★かけがえのない妹トシとの死別。それを「永訣の朝」として賢治は美しく歌い挙げていますね。その核心を「雨雪のうつわ」としたのですね。第四句と結句の字余りは、作者のそうした切迫した気持ちなのだ読みました。

入選

部活中開けた窓から届く風置

きっぱなしの楽譜をめくる

（多田あぐり 花巻市立矢沢中学校 2年）

★「部活動」は、中学生の頃に熱中するものの一つですね。その「部活」中に「開けた窓」から「届く風」が「置きっぱなしの楽譜をめくる」という表現は、なかなかのもですが、賢治の読者なら、あの「風の又三郎」をさせるところが、作品の手間でしょう。

長引いた裁判終わらず手紙なら
墨がだらだらたれないように

（伊藤瑠華 花巻市立大迫小学校 5年）

★技巧の上手さに思わずうならされました。長引く裁判とだらだら垂れる墨は似通うものがあります。裁判がすばつと終わるようにきりつとした文字で手紙を書きたいものです。他人が思わぬところに目をつけて個性的な作品になりました。

でこぼこでおんなじ色のしましまの
ぼくの小石はいかがでしようか

（佐藤静哉 花巻市立大迫小学校 5年）

★宮澤賢治は石が好きだったというエピソードがあります。作者の好きな石を詠み、賢治に話しかけているような楽しい作品

です。「でこぼこでしましまよう」と石の細部が丁寧に表現されていて、作者の石への愛が伝わってきます。

賢治さん非現実のプロデューサー石好きだけど石頭じゃない
（菊池真矢 花巻市立大迫小学校 5年）

★確かに賢治の作品は現実を写しただけのものではありません。素晴らしい想像力は「非現実のプロデューサー」とも呼べますね。「石好き」と「石頭」を対比させたところも面白いですね。

ぼくなんか一年かかってまだ三位
ゴーストは六日でセロの名人

（藤原墨夢 花巻市立大迫小学校 5年）

★「ぼくの三位」は何の三位かは不明ですが、ゴーストがセロを通して成長して行く日数と比べてみせるところが小学生らしい作品に纏まりましたね。

賢治さんどういいう石が好きですか？
ざらざらだ円それとも四角？

（丹野美優 花巻市立大迫小学校 5年）

★賢治の石好きは「石っこ賢さん」としても良く知られていますね。その賢治が好きだった石

はどんな石だったでしょう。「ざらざらだ円それとも四角」は、形の上から考えたのですね。「ざらざら」と「それとも」も巧みな表現です。

聞こえるねふたごの星の銀笛が私の歌と星をめぐるよ

(中村麻梨香 盛岡市立月が丘小学校 5年)

★「双子星」は、冬の星座で、賢治好みの題材だと言われています。それに由来する童話「双子の星」の「銀の笛」が「聞こえる」人はどういう人でしょう。その「銀笛」の音は、作者の歌と「星」との周りをめぐっているのですね。

ぼくたちの部屋まで風がふきこめばやってくるかな又三郎が (平嶋純也 盛岡市立月が丘小学校 6年)

★部屋の中まで吹き込むような強い風、それならばたしかに風の又三郎が飛んできそうです。日常生活の中にあるシチュエーションを自然に用いたことで、かえって歌のファンタジーが強化されていると思います。

賢治さん今はどちらにおりますかわたしはいつもここにおります

(伊藤花菜 紫波町立古館小学校 6年)

★宮澤賢治の不思議さ、奥深さのことを考えると「今はどちらにおりますか」と語りかけたくなりますね。それに合わせるのに「わたしはいつもここにおります」は絶妙で素晴らしい作品となりましたね。

星達がブトリの命照らしてる

イーハトーブの幸せ願ひ (高屋敷葉月 花巻市立若葉小学校 6年)

★グスコープドリは「てんぐすこんぶ取り」から生まれた名前だと言われていますね。多くの人のために自分の命を犠牲にしたブドリを照らしている「星達」が願った「イーハトーブの幸せ」とは、どんなものだったのでしょうか。

びゅうびゅうざざざと こえ呼ぶ地平びっそりとぬけ出してぼくは銀河を走る (中田光紀 福山市立南小学校 6年)

★初句の「びゅうびゅうざざざ」という字余りのオノマトペにはちよつとびっくりさせられますが、第二句から結句にかけて五七五七七の短歌の形にきちんと収めましたね。「地平」を「びっそりとぬけ出し」た「ぼく」が「銀河を走る」へのまとめ方も鮮やかです。

学校賞

盛岡市立月が丘小学校

4, 5, 6の3学年にわたって作品を応募し、題に即した短歌、それぞれに個性的な歌、ユニークな歌が多いと思いました。物語をよく読みこんで居ることが伺える作品内容や、短歌作品としての形が整っている作品が多く、児童一人ひとりの賢治世界が存分に表現されていることが評価できます。今後の継続・発展を期待します。

花巻市立大迫小学校

本年度も粒ぞろいの作品を寄せてもらいました。選に入らなかった作品にも棄てがたいものがありました。ここ数年続く実績です。他の学年へ、他の学校へということを考えてもらえるとありがたいと思います。

花巻市立矢沢中学校

人間として様々なところを潜在、自立が具体的テーマとなり、中学校の難しさは、また、賢治の一生の困難さにも通じるころがあると思います。中学校としての挑戦に敬意を払い、今後の継続と学校全体や近隣などの学校への広がりも期待したいと

思います。

最優秀賞を受賞して

花巻市立矢沢中学校

2年 小田島光司

ある日突然「宮澤賢治の短歌大会で最優秀賞をとった」と言われて驚きました。それ以上に周りのみんなが驚いていました。

短歌の学習では、教科書に載っている様々な短歌の意味を考えたり、その作者の短歌を書いた時の気持ちを考えたり、その思いを理解したりするなど難しくかったです。

その後、「風」や「星」などの宮澤賢治と関係のある言葉をテーマとして短歌作りに挑戦しました。僕は、自分で何かを考えて物を作ったり、文章を考えたりするのは苦手でした。

そんな僕が、短歌でこんな賞をとるなんてだれも予想していません。自分自身でも信じられません。この短歌は、友達と話をしているうちに創ることができました。「空」というテーマで思いつくことを話しているうちに、情景が思い浮かんできたのです。それを五七五七七であてはめて短歌にすることができました。

こんな僕が最優秀賞をとれて本当にうれしかったし、僕と話

をしてくれた友達に感謝します。

「宮澤賢治」の本を話題にして短歌作りにチャレンジ

盛岡市立月が丘小学校

教諭 柏崎 裕子

「宮澤賢治」の短歌コンクールにあなたの作品を応募してみませんか？こんな誘い文句に惹かれ、短歌作りに挑戦した子どもたち。と、言っても「興味のある人は応募してみよう」という程度の呼びかけが学校賞入賞というたいへん喜ばしい受賞につながることは、思ってもいないことでした。

「宮澤賢治」についての子どもたちの認識は、「銀河鉄道の夜」や「どんぐりと山猫」などの絵本を書いた童話作家という程度。多くの子どもたちは、どんな話だったか、図書館や家にある本を読み返して作品に対する感想を深めることからスタートしました。

このコンクール参加の呼びかけが、宮澤賢治の童話に触れるよいきっかけとなりました。短歌応募に向け、初めて作品を読んだ子どもたちは、物語の持つファンタジックな独特な世界に浸っている様子でした。前に読んだ童話を読み返した子どもたちは、賢治の差別や偏見をもたない、万人に対しての深い愛情

特別寄稿

盛岡高等農林学校の
おいしそうなものたち

兵庫県在住 中野 由貴

賢治作品や賢治自身のエピソードに登場する食べ物に関心があり、「食べる・作る・考える」の実践の場としてときどき岩手にでかけている。

そんな中、一昨年、花巻で親しくしてくださいっているTさんより、「おいしそうな」12種類のラベルをいただいた。Tさんのお父様は、盛岡高等農林学校のお賢治より8級下の後輩で、これからラベルを学生時代にスクラップしていたのだという。

ラベルのそれぞれは、「洋梨・SPECIALLY SELECTED ROSE BRAND・MORIOKA AGRIC. COLLEGE」「ソース・盛岡高等農林学校」「トマトケチャップ・盛岡高等農林学校」「葡萄液・盛岡高等農林学校農藝化学部製造」「イチゴジャム・盛岡高等農林学校農産製造室」「イチゴジャム・盛岡高等農林学校」「もも・盛岡高等農林学校」「桃ジャム・盛岡高等農林学校農産製造部製造」「甘露あま酒・盛岡高等農林学校農藝化学部」「満すら緒・盛岡高等農林学校農藝化学部醸造」「納豆・盛岡高等農林学校製造」「納豆・

盛岡高等農林学校農産製造部」の名称と校章がそれぞれカラーのイラストとともに描かれている。

岩手大学農業教育資料館のHP「農産加工物レット等」という項目を拝見すると、「農産加工物レット（盛岡高等農林学校時代）、岩大牛乳瓶等34点」の中に同じラベル（レット）を見つけた。それであらためて手元にある12種類のラベルは、盛岡高等農林学校農藝化学部でつくられた加工品のラベルだと確信できた。ところで資料館にはビールやワインのラベルも展示されているようで、高等農林学校の実習ではあらゆる農産加工品が作られていたことがうかがえる（今年4月以降に再オープンの農業教育資料館に、きつと訪ねます）。

ラベルに描かれているイラストは、どれもカラフルで美しい。デザイン的にも工夫がされている。しかしデザインに一貫性がないことや、学校名の表記が統一されていないことから想像すると、同時期に作ったものではないと思う。また加工品製

造は授業の一環であるのだから、そのラベル制作も、生徒たち（美術部員など絵心のある生徒たちかもしれない）が関わっているのではないかと考える。

賢治は、盛岡高等農林学校に入学したのが大正4（1915）年4月、卒業が大正7（1918）年3月。その後、大正9年まで研究生として在籍していた。

一方、Tさんのお父様は賢治より8年後の入学ということなので、大正12年（1923）年入学ということになる。つまりこれら12種類のラベルは、大正12年から昭和初期にかけての加工品に使用されていたことになる。

8年という時間の流れの中では、授業内容にも変更があったと思われるし、作る加工品の内容も、当時の食料事情や食生活の変化などで異なっているかもしれない。しかし、もしラベルが同時期に作られたものではないという推測が当たっているならば、賢治の時代にも、この中のいくつかの加工品が作られていた可能性は大きい。

はたして賢治の時代には加工品を作る授業があったのか、あったのならば何をどのように作っていたのか。レシピなどのわかるテキストなどがあれば見

てみたい。今後ぜひご教示いただきたいところである。

また賢治在学中のものとは異なるという結果としても、大正時代後半から昭和初期、賢治が『春と修羅』や『注文の多い料理店』を出版した頃の食環境、当時の人がどんな食べ物に関心があったのか、どんな味に親しみ、どんなものを、どのように食べていたのかといった、当時の食の流行や情報がこれらのラベルの向こう側に詰まっていることに変わりはない。

「注文の多い料理店」山猫軒のフライヤサラダ、「かしはばやし」の夜」の葡萄酒などイーハトーブのおいしいものと、当時のハイカラな食べ物が多くなってくる。

葡萄液を注いだサイダーを食前酒に乾杯。満すら緒（おそらくは日本酒）やワインを傾けながら、トマトケチャップをつかったオムレツや、ソースが隠し味の洋食に舌鼓。食後は桃ジャムとイチゴジャムを添えた紅茶とともに、デザートは洋梨

ともものコンポート……。大正時代の農藝化学部製造の加工品で作るデイナーは、ずいぶんと洒落たものになりそうだ。味わってみたいくなった。



特別寄稿

アザリアたちと関わって

愛知県在住 正海 澄恵



岩手大学内・旧植物園跡と案内板（賢治・嘉内等が写真を撮った場所）

その日の朝は平日ということもあり、岩手大学のキャンパスには多くの学生たちが行き交い、自転車に乗って移動する姿も見かけられました。集合時間にはまだ間があったので、私は6月になったばかりの清々しい構内を少し散策することにしました。校舎の奥にある自然観察園を歩いていると、小鳥がさえずり、木々は風に吹かれてさわさわと心地よく鳴りました。植物園の広場に宮澤賢治ら僚友が座り、保阪嘉内が中央に寝そべっている写真は、この辺りで撮ったものであり、石の案内板が設置されていました。その一面には、草木に覆われた盛り上がり

があり、よく見ると早池峰山をかたどったといわれる石の山でした。ああ、あそこで賢治と嘉内たちが写真を撮ったのだ……。ざわざわと風が吹き、見上げるとまぶしい空に新緑の枝が揺れていました。気配を感じて振り返ると、数人の学生たちが談笑しながら通り過ぎて行きました。おかしなことに、袴姿と学生服に学生帽。そしてあの石の山にふざけ合いながら腰掛けると、頬杖をつく者、あらぬ方向を見る者、思い思いにポーズをとって写真を撮り始めました。ふっと彼らは消え、またもとの草だらけの山になってしまいました。私はしばらくその場にぼんやり立っていました。

平成21年5月末から6月初め、私は13年ぶりに岩手を訪れていました。目的は岩手大学創立60周年記念展示『アザリアの咲くとき』宮澤賢治と学友たち』のオープニングセレモニーに参加させていただくためでした。岩手大学に来たのは3度目でしたが、前の2回とも運悪く目の

当の旧本館である農業教育資料館が閉まっているがっかりし、今回初めて念願の内部見学が叶ったのでした。当時の貴重な資料が多く展示されており、2階は賢治の作品『大礼服の例外的効果』の舞台である大講堂がかつての趣のまま保存されていて、岩手大学にはそこかしこに、アザリアたちの気配が残っていました。

保阪嘉内が突然の除名処分を受け、大正7年の春に学校を去って以来、アザリアの主要メンバー宮澤賢治、河本義行、小菅健吉の四人がこの地に揃うことはありませんでした。じつに90年という時を経て彼らの子孫がここに集ったことは、一賢治ファンとしても大きな驚きと喜びであり素晴らしいできごとでした。賢治たちも今日きつとここに来ているに違いない、と感じ守っているに違いない、と感じたものです。今思い返しても感慨深く、時が経つごとにその重みもいっそう増すように感じます。昨年の賢治祭で、御船道子さんが夏頃に逝去されたことを聞きました。毎年賢治祭には来られていたので、当然お見えになると思っていたのでした。心よりご冥福をお祈りします。そしてあのとき「アザリアの咲くとき」展で皆さんが岩手大学



「アザリアの咲くとき」展にて 左から御船道子さん、小菅充さん、保阪善三さん、宮沢和樹さん、その前が保阪庸夫さん

に揃われたことは、ほんとうによかったとあらためて感じたのでした。

私は愛知県に在住で、生まれ育ったのは今年式年遷宮で話題の伊勢市です。どういわけか、それまでひとり賢治作品を読んでもあれこれ思いを巡らすだけでしかなかった私を、保阪嘉内の故郷、葦崎に引き寄せる見えない力がありました。

平成19年秋に開催された山梨県立文学館「宮沢賢治 若き日の手紙 ―保阪嘉内宛七十三通―」を見に行き、大変な衝撃を受けました。直筆の手紙からは若き日の賢治のありのままの姿、息づかいや体温までもが迫ってくるようでした。高校二年の時に出会って以来、賢治を追いかけてきましたが、結婚後は子育てや仕事もあり、自分の楽しみなどからはすっかり遠

のいてしまっていたところ、再び賢治熱に火がつかれました。そして保阪嘉内のことを知るにつけ、もっと深く知りたいと思うようになりました。嘉内に関する書籍の出版や資料も公開され、二人の友情がどのようなものだったかを知るにはいい機会でした。それまで賢治ひとりに光を当てているだけではわかなかったことが、嘉内を知ることによってたくさん見えてきました。ともすれば、立派になりすぎる賢治像にとまどいと違和感を持つこともあったのですが、大地を踏みしめ私たちと同じように悩み苦しむ喜びも楽しむ人間・宮沢賢治の姿が私の前に現れてきました。そうなるとう、賢治と嘉内の友情、義行や健吉、ほかのアザリアの仲間たちとの友情から目が離せなくなりました。

そうこうするうちに平成20年9月21日、初めて葦崎を訪れる機会を得て、保阪善三さんのお宅（嘉内の生家）と庸夫さんのお宅に伺いました。賢治が没してちょうど75年目の日でした。実は賢治を知って間もなく、初めて手に取った賢治研究書というのが保阪庸夫・小澤俊郎著『宮澤賢治 友への手紙』だったのです。しかし当時は私も若く、手紙の内容の深いところまで読

み取ることができませんでした。まさか約30年後にこんな日が来るとは想像すらできませんでした。この日を境に、私は離れた愛知に居ながら、葦崎のアザリア記念会メンバーの古い友人のように輪の中に入れて貰いました。そして岩手大学60周年の展示やその年の葦崎での「銀河の誓い in 葦崎・アザリアの友たち」の展示に多少なりとも関わらせてもらい、幸いにも岩手大学のオープンセレモニー、葦崎での感動の再会の場にも立ち会わせて頂くことができたのでした。そしてこのようななかで「賢治・嘉内生誕110周年記念実行委員会」が「アザリア記念会」としてあらたに発足し、今後も長く活動を続けていくことになったのは実に嬉しいことでした。

毎年10月18日の嘉内の誕生日前後に葦崎市で開催される『花園農村の碑・碑前祭』に出かけたりするうち、各地の宮澤賢治ファン、研究者の方々と話す機会がででき、数年前までは地方でひとりきりの賢治の世界でしかなかったものが、関西に出かけてみたり、16年ぶりの賢治祭に行つて、ここでまたたくさんの新しい方々と知り合えたり：考えられないことになっていくのと思うと、今でもふと、現実のことは思えないような不思議な気持ちになります。なぜなら私は研究者でもなく何の実績もなく、ただ一ファンとして賢治を追いかけてきたにすぎないからです。

やまなしとぎんどうの苗木から始まった岩手と山梨の交流、その後の幸運の連鎖を傍らで見せていただいて、それぞれの方々がそれぞれの立場で願ったことや想い、閃き、実現に向けた努力、それらが集まり大きな流れをつくってきたことは間違いない、奇跡というよりは過ぎてきてみればみな必然なのではないか、そんなことを考えているとまた様々な感動がよみがえってきます。たくさんの方々の尽力によって、このアザリアの友好の輪が繋がられ広がってきたことに感謝します。昨年も栃木県のさくら市ミュージアムで『アザリア』の仲間たち』展が開催されました。残念ながら私は行けませんでした。素晴らしい図録を手に入れることができ、展示会も大好評だったということまで心から嬉しく思います。

嘉内やそして義行、健吉に触れる機会が増え、賢治にとつて盛岡高等農林時代とは、その後の賢治の思想、生き方の礎であり、アザリアの友からの影響なくしてはあの宮澤賢治はなかつたと言つても過言ではないことを知りました。まさに「宮澤賢治」はあそこで誕生したので。人は決してひとりて生きるのでも成長するのでもなく、互いに刺激し影響しあつて意識を高め人間性を深めていくものだと彼らは教えてくれています。賢治たちが切磋琢磨しながら友情を育て感性を磨き輝く青春時代を過ごした盛岡高等農林Ⅱ岩手大学は、賢治ファンにとつても大切に愛着のある特別な所です。そのような場所を拠点とする宮澤賢治センターは各地に散らばるアザリアの友たちの求心力となりうる唯一の機関ではないでしょうか。センターだからこそできること、センターにしかできないことを地道な活動のなかで着々と成されてきたことに感謝するとともに、今後の益々の活躍と発展を願ひ期待しています。

前にも書きましたが、葦崎市のアザリア記念会では、毎年10月中旬頃、東京エレクトロン葦崎文化ホールにて『花園農村の碑』碑前祭を行っています。毎回素晴らしい講師を招いて講演会も行つていて（ちなみに昨年は事務局長・佐藤竜一さん）、どなたでも気軽に参加していただける温かな集いです。今年は10月12日（土）の予定ですので、ぜひ遊びに来てください。それに先立ち今年9月15日（日）に「第28回 国民文化祭 やまなし2013」の一環で宮澤賢治記念館副館長・牛崎敏哉さんの講演もあります。今後もアザリアの輪にたくさんの人々を巻き込み、さらに大

きな何かを生み出すことを想像します。賢治の手紙七十三通が、岩手に里帰りできたら素晴らしいなあ。アザリアたちと関わるようになって、ほんとうにたくさんの幸せを感じる機会を貰いました。が、今後自分に何が出来るだろうか、どうやってお返しをしていくのかを考えていかねばと思つていきます。



宮澤賢治センター今後の定例研究会の予定

4月11日（木）話題提供者：及川隆二氏（光原社社長）
話 題：宮沢賢治と光原社

5月17日（金）話題提供者：若尾紀夫氏（岩手大学名誉教授）
話 題：盛岡高等農林学校と宮澤賢治

*いずれも17時～18時、参加費無料、会場は岩手大学農学部1号館2階第一会議室都合により、日程や話題が変更になる場合があります。

詳細は宮澤賢治センター（電話 019-621-6672）にお問い合わせください。

6月の話題提供者は望月善次氏（岩手大学名誉教授）、7月の話題提供者は山本昭彦氏（岩手大学人文社会科学部教授）で、山本昭彦氏は「風の又三郎と赤いうちわ」という話題で発表の予定です。

ウルグアイ
だより 3

(最終回)

岡田 幸助

早いもので、帰国まで2ヵ月になりました。このウルグアイだよりも最終回です。日本の寒波やセンター試験のニュースが聞こえますが、こちらは現在、真夏です。大部分の先生や職員がクリスマスから1月いっぱい長い休暇を取っていて、大学構内はシーンとしています。学生さんはたぶん新学期の3月20日ごろまで来ないのではないのでしょうか。



自分の名前の漢字を腕に書いてもらっている子供

異文化体験の続きです。ウルグアイ人は本当にお話好きです。仕事そっちのけでいつまでも延々と話し込んでいます。それだけみんな仲がいいのです。そしていつもマテ茶を飲みます。南米原産のイエルバ・マテという植物の葉っぱと小枝を乾燥させて細かくしたもので、栄養素に富み「飲むサラダ」とも言われ、カフェインも含まれています。私は日本から持って来た緑茶が切れて、その後はずーとマテ茶を飲んでいきます。私はマテの葉を上から円形の網で葉っぱを下に押し込む式のガラ

ス製のポットに入れてお湯を注ぎ、頂きますが。ウルグアイ人は特別な容器(ポロンゴ)にびっしり葉を入れて金属製の先が茶濾しのふくらみになったストロー(ボンピージャ)を使って飲みます。味は草の香りのする濃い抹茶と言えば良いでしょうか。ウルグアイ人はいつも魔法瓶を小脇に抱えて、容器にお湯を少し注いでチユチユとすすっています。会話をしている時はこちらも、バスを待っている時も、買い物をする時も、散歩の時も、授業中でもいつでも飲んでいきます。それくらいウルグアイ人はマテ茶が好きです。また親しい人同士で回しのみをします。容器もひょうたんを切り取ったものが本式で、その他いろんな容器が売られています。それらすべてを収める大きな鞆(高さ30cm、長径20cm、短

径10cm)もあり、それをぶら下げて出勤したり、大学に登校したりしています。それにも革製の立派なものから、ズック製の簡便のものまでいろいろです。重さやかさばりは気にならないようです。

ウルグアイ人は紳士です。列の並び方はヌメロという機械がどこにもあってテープをちぎりとります。それに番号が振られていて、その番号が呼ばれるのを待ちます。誰でも順番がくるまでおとなしく待っています。スーパーマーケット、銀行、両替商、大学、市など人が順番待ちするところにはどこにでも置いてあります。

小学生は白いスモックのような制服を着て、大きな青いリボンに胸に結んでいます。公立小学校の生徒には全員、無料で小型のノートパソコンが配られています。ウルグアイ政府は2007年よりから教育の一環として、公立の小学校や中学校を対象に小型のノートパソコンを一人に一台渡して児童へのパソコンの普及と学校への無線LAN設備の設置を図っています。現在まで、570,000台渡されているようです。子供たちは社会から大切に育てられ、活き活きとしています。こちらには日本のような「いじめ

は」無いそうです。

ウルグアイの人は漢字が好きです。日本大使館主催で日本とウルグアイの交流のイベントが時々開かれます。そのとき決まってるのが名前書きです。ウルグアイ人の名前を漢字の当て字で書くのです。とても喜んでくれます。漢字を刺青でしている人も多く見かけます。

南米特有の植物として、ボラチヨがあります。幹がビヤ樽のように太くなり、トゲがありません。花は3月頃花卉の細い赤い花が咲きます。遠くから見ると桜のように見えます。オンブーはとても太い幹でその巨大さには驚きます。草の一種で年輪はありません。幹の周囲は10mぐらいあるでしょうか。ぶくぶくと太ってとてもユーモラスでもあり、その土地の守り神のような神秘さもたよっています。葉っぱには毒があるようです。春に青い花が桜のように美しくびっしりと咲くジャカランタという樹もあります。

鳥としては、スズメより少し大きなオルネロは市内でよく見かけます。建物の高いところに、ツバメのような巣を作ります。ツバメはお皿のような形ですが、この鳥は球形の巣です。緑の色をしたインコも公園などにたくさんいます。



太いオンブーの樹の前で

賢治センター通信16号をpdfファイルで読ませていただきました。農学部1年生の佐藤一磨君の文章を読んで感動しました。岩手を愛する最高のプロフェッショナルが宮澤賢治だといふのです。文学に疎い私がないぜ賢治センターにかかわっているのかと考えてみると、旧満州で生まれ、京都、香川、岐阜、北海道と渡り歩き、ついには地球の裏側ウルグアイまで来てしまった私が、どこから見ても岩手はやっぱりすばらしい、これをみんなに知ってもらいたい、岩手大学を愛し、岩手県を愛するからだと思えました。賢治センターは、みんなの賢治の関心を集約するという意味で今後も岩手大学に無くてはならない存在だと思えます。

(宮澤賢治センター 理事)

会 員 投 稿

「宮澤賢治と社会思想」 —宮澤賢治センター通信 第15号を読んで—

(その2、第16号掲載文の続き)

宮城県涌谷町在住

伊藤 源治

日本の研究と課題—日本での評価と研究の現状はどうでしょう。日本の社会は一つの業績を残し、少し有名になれば、人間が神格化され、その人間の「限界」が隠蔽され、神格化に不都合なことが「おもて」に出てくることはありません。時代の風潮に合う部分だけがもつともらしく表面に出されて論じられることが多く、研究の「真の深化」と芸術の「真の評価」は難しい社会です。

また、賢治の作品は教育現場でも多く採り上げられています。が、たとえば「雨ニモマケズ」、この一編の詩の社会意識、生活意識はあの時代の為政者が望む、従順で支配しやすい「物言わぬ農民」ではなくて何でしょう。この詩には社会的な主張がなく、その「眼と意識」は村落内に限定されていて、視野

が狭いことがわかります。なにより、現代の為政者にとっても実に都合のいい「ことば」が多く並んでいます。私は学校教育で多く採り上げられる理由の一つはここにあると考えています。

そして、かれの育った家庭環境と生き方、当時の地域社会と風土、農村の経済状況は切り取られ、浅く表面的な解釈だけが罷り通ります。これを為政者が「望ましい道徳律」とし、理想の人間像として、一方で軽薄で殆んど思慮がない現代の社会風潮がこれを支えています。

残念なことに研究の中心である大学でさえこれに同調する傾向が見えて来ました。賢治の芸術にとって実に不幸なことです。

芸術は社会の中から—賢治の「生き方」と「芸術」は、生家の豊かな経済環境を見据え、当時の岩手県の疲弊する農村の社会状況から切り離さず、なによりその風土から考えないと真の「理解」「評価」にはならないと考えます。

浅くて情緒的な「ことば」の解釈だけでは理解できず、為政者に都合の良い、もつともらしい「道徳律」に利用されるだけです。

宮澤賢治の「芸術の不幸」は

ここから始まっていると思います。かれの芸術は高く評価されるべきですが、現在の「神格化」が進行している状況に対しては強い危惧の念を持たざるを得ません。

いまこそ—今こそ、宮澤賢治の研究は、かれの生まれ育った家庭環境、生きた地域社会・風土、あの時代の政治・経済の状況、宗教界の諸相から離さず、その芸術が生まれた時代背景を結びつける必要があります。

さらに、教育現場と社会風潮の浅薄で情緒的な解釈の「現状」を打ち壊し、新たな解釈を打ち出す必要に迫られていると思います。芸術ですから多様な解釈が可能ですが、教育の現場では賢治の芸術作品を権威による浅薄で情緒的な解釈に狭めて、鑑賞にまで「介入」しています。

また、青少年用と称して軽薄なりライト作品を提供することはかれの芸術に対する冒瀆ではなくて何でしょうか。

これらからの解放は当然で、宮澤賢治の芸術の不幸な現況に、すなわち「神格化」の傾向に対抗して、それぞれの立場から大きな批判の声を上げるときと考えています。

編 集 後 記

▽今年には宮沢賢治が亡くなって80周年という節目の年です。各地でさまざまなイベントが企画されています。それにあやかっただけというわけでもないのですが、今号は増ページとなりました。

兵庫県在住の中野由貴さんは賢治と料理に関して長年研究し実践してきた方ですが、盛岡高等農林学校でどういう食べ物を作ってきたかという視点はおもしろい。確かに、どういう農産加工品がつくられたかを調べることで当時の流行など食品事情が明らかになりますし、賢治作品に登場する食べ物を考察するヒントにもなりそうです。

愛知県在住の正海澄恵さんは、アザリアの取り持つ縁の広がりについて寄稿して下さいました。盛岡高等農林学校という磁場が宮沢賢治を生んだというのは確かです。賢治という人間が単独で生まれたわけではなく、保阪嘉内、小菅健吉、河本義行といった友人たちとの交流を通して、お互いに影響し合っていた。賢治ひとりを特別視するのではなく、そういった広がりの中で賢治をとらえた方が実像に近づけると思います。

澤口たまみさんは、ともしれ

ばタブーとされてきた賢治の恋愛に関して長文で切り込みを入れて下さいました。異論もあることと思いますが、さまざまな想像が広がっていくことは楽しいことでもあります。このテーマは今後も、議論を呼ぶことでしょう。

賢治ほど老若男女に広く愛される作家は珍しいし、その思いはそれぞれである。今号の原稿を読んで、改めてそのことに気づかされました。賢治に対する思いが人によって異なることを尊重しながら、開放された場を提供する。宮澤賢治センターはそんな存在でありたいと願っています。

(佐藤 竜一 記)

宮澤賢治センター通信

○発行

〒0201855

盛岡市上田四丁目三番五号

電話 〇九六二二六六七二

FAX 〇九六二二六四九三

E-mail:kenji@wate-u.ac.jp

HP: http://kenji.gcs.wate-u.ac.jp/

宮澤賢治センター(岩手大学内)

発行責任者 鈴木幸一

○印刷 杜陵高速印刷株式会社